

国家戦略特区ワーキンググループ提案に関するヒアリング (議事録)

(開催要領)

- 1 日時 平成 25 年 9 月 19 日 (木) 8:40~9:00
- 2 場所 永田町合同庁舎 7 階特別会議室

出席

<WG 委員>

委員 坂村 健 東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授

<提案者>

赤木 正明 兵庫県産業振興局長
坂東 政市 兵庫県産業労働部科学振興室長
三木 孝 神戸市企画調整局医療産業都市推進本部長
辻本 伸治 大日本住友製薬株式会社企画グループ主席部員
岸本 尚 富士フィルムメディカル株式会社
田村 太郎 特定 NPO 法人チャイルド・ケモ・ハウス
瀧口 直彦 株式会社ひょうご粒子線メディカルサポート
三菱電機株式会社

<事務局>

川本 正一郎 内閣府地域活性化推進室長
加藤 利男 内閣府地域活性化推進室国家戦略特区総括官
富屋 誠一郎 内閣府地域活性化推進室室長代理
藤原 豊 内閣府地域活性化推進室参事官
宇野 善昌 内閣府地域活性化推進室参事官

(議事次第)

- 1 開会
- 2 議事 ひょうご神戸グローバル・ライフイノベーション特区～iPS で世界を変える～
- 3 閉会

○藤原参事官 それでは、始めさせていただきます。

兵庫県・神戸市の共同提案でございまして、「ひょうご神戸グローバル・ライフイノベーション特区～iPSで世界を変える～」ということでございます。

全体20分弱でございますが、7～8分程度で御説明いただきまして、その後、質疑応答とさせていただきます。提案資料、議事録は公開とさせていただきます。

それでは、プレゼンテーションをよろしく願いいたします。

○三木本部長 そうしましたら、提案書とは別に、お手元に横長のプレゼンテーション資料を用意しておりますので、それで御説明させていただきます。

題でございます。今回兵庫県、神戸市と10を超える我々のクラスターの企業の皆さん方とともに、「iPSで世界を変える」というライフイノベーション特区の提案をさせていただいております。

私どものほうのプロジェクトは、元々1998年、震災復興の最後のプロジェクトとして始まりました。15年が経過しまして、クラスターということでは日本最大のクラスターに成長しておりまして、今、250社を超える企業と6,000人弱の雇用を生んでございます。

ただ、これは日本最大でございますけれども、次のページをめくっていただいたらお分かりのように、我々としては、急迫するアジアのクラスターに負けないための提案を今回お願いしております。ですので、基本的に今回の国家戦略特区の提案の趣旨として規制緩和ということでございますので、兵庫県、神戸市に国のほうの規制の権限の一部を移譲していただきたいというのが主な趣旨でございます。

我々の一番のライバルはシンガポールでございます。シンガポールは、神戸市の2倍の人口、兵庫県の半分の人口、面積としては淡路島なのですけれども、自国で制度を変えられるというメリットを持ってございます。

我々もある程度ライフサイエンスのイノベーションに関する部分について、制度を我々のほうに移譲していただきたいということで、その次のページにございますとおり、難病を克服する「再生医療の実現」、「人にやさしい『医療技術、医療機器の開発』」、「患者一人ひとりに対応した『革新的医薬品の開発』」、「健康長寿を目指す『先制医療』を市民とともに実現」という四つのプロジェクトで、世界の医療、市民の生活を変えたいというふうに思っております。

まず、iPSでございます。私どものほうの先端医療センターでは、世界で初めてiPS細胞を使った網膜の加齢黄斑変性という疾患の治療が始まってございます。ただ、そればかりではなく、既に、視細胞であったり、心筋細胞であったり、脳神経細胞というのが私どもの理化学研究所の発生・再生科学総合研究センターのほうで、実際は組織として出来上がっています。これを今後5年後に製品化させていって、世界に難病を克服する新しい医療を届けたい。

これは大日本住友製薬、ヘリオスなどの企業と一緒に届けるということで、まず、お願いしたいのは、iPS細胞再生医療専門の医療センターを設けたいと思っております。けれども、病床規制がありますのでできません。それと、それ以外にも病院に関する病床数とかスタッフ数とかと言いまして、専門医療機関の規制がございます。私どもはメディカルクラスターというのを作って、合計七つ、中央市民病院、県立こども病院が核なのですけれ

ども、七つの専門病院で新しい医療をやりたいと思ってございますので、1,400床ぐらいございますけれども、それを一つの医療機関として取り扱っていただきたいということも併せて要望させていただきたい。病床規制については、撤廃というよりも、むしろ権限を知事、市長に下ろしていただきたい。こういうことを要望しております。

具体的な医療の中身で、「人にやさしい『医療技術、医療機器の開発』」でございましてけれども、神戸を拠点に、今、アジアの7か国の国際医療ネットワークが生体肝移植の田中紘一先生の御指導で出来つつあります。生体肝移植に加えて、今日も来ていらっしゃる富士フィルム、オリンパスの内視鏡の技術、あるいはそれを補足するレーザーの治療装置、こういったものを次々、神戸あるいは日本で開発して、アジアのスタンダードとして売り込もうとしてございます。

それに加えて、今日は三菱電機も来ていらっしゃいますけれども、三菱電機の陽子線、炭素線の治療装置は、国内でナンバーワンの販売実績を誇っております。これをこの国際医療ネットワークを介して世界に売り込みたい。これは本当に人にやさしい、患者にやさしい治療装置でございます。

さらに、今日も来ていただいておりますけれども、この5月に神戸で新しいタイプの小児がんの医療機関かつ療養機関であるチャイルド・ケモ・ハウスという19室の診療所を備えた、子どもと家族にやさしい医療機関が出来上がりました。ただ、残念ながら、今の制度では、これは病床規制もあり、あるいは細かい医療機関の規制もあり、全体を新しい医療機関として見なせませんので、これを子どもの医療の特例として、新しい医療機関として見なしてほしいという要望も入れてございます。

私ども、もう一つ、iPS細胞とともに世界に誇れる基盤技術ということでスーパーコンピューター「京」、それと、兵庫県の西播磨にはSPring-8、SACLA、これはいずれも世界一の科学技術基盤でございます。これを活用しまして、iPS創薬とともに、アジアの患者を対象にした新しいバイオ医薬等の医薬品の開発ができるというふうに考えております。

特に、②に書いてございますように、近々、日本の今、抗体医薬等のバイオ医薬は世界の新薬市場の6割以上を占めているのですけれども、安定生産技術と低コストでの生産技術が難しいということで、スパコンとか、SPring-8、SACLAも使ってそれをやるプロジェクトがスタートしますので、これを実際にメディカルクラスターで臨床試験をして、アジアに打って出るというプロジェクトをやらせていただきたいと思っております。そのための産学連携の特別枠というのをSPring-8、「京」にも設定していただきたいと思っております。

最後は、新しいヘルスケアシステムの提案でございまして。今、アジア、これから日本の経済成長の阻害要因になります疾患というのがあります。要するに、要介護状態になりますアルツハイマーであったり、糖尿病をいかに事前に予防をするかということでございます。それと、今、子どもの世界では、教育の世界では、発達障害が非常に問題になっております。それと、若い方の鬱、これも非常に増えてございます。これを発症前に防ぐためには、個人の胎児期からの色々な健診データを、マイナンバー制度を活用することによっ

て集めて、色々な遺伝子の情報を持っておられる方が、実際どういう形で病気になるのか、健康になるのかというのを生活データとともに集めたい。これがまず第1でございます。

それと、色々な予防的介入をやります。それを支援するための新たな任意の保険制度も神戸市のほうで考えたいと思っております。

この二つをやるに当たっては、マイナンバー制度は全ての市民対象でございますので、任意の市民に使えるという形での法律改正も要ると思っておりますし、あるいは、介入するための保険制度を実施するに当たっては、混合診療の特例も要るというふうに考えてございます。

こういう四つのプロジェクトをするに当たって、まとめて規制緩和項目を挙げております。最後の所に、神戸空港の利便性の向上、これは、民主党政権時代の国際戦略総合特区で要望しようと思ったのですが、関西の中で阻まれております。ですので、これについては、今回はひょうご神戸の提案で遠慮なしにお願いしたいと思っております。

今回は10以上の企業の方々から、希望する税制改正8項目、これはいずれも諸外国では実施している内容でございますので、これについては是非お願いしたいと思っております。

四つのプロジェクトを実施するに当たって、我々のほうは全体で9,000億円の効果を見込んでおります。iPSの再生医療の市場では、世界市場の10%を神戸発で取りたいと思っております。内視鏡の市場では世界市場の増分の4分の1、あるいはバイオ医薬では世界市場の5%を取っていきたいということを考えております。最後の4番目の項目は、これは神戸市内だけの効果で366億円、合計9,000億円の経済効果を考えておりますので、よろしく申し上げます。

引き続き、兵庫県のほうから。

○赤木局長 兵庫県のほうからは3点ばかり補足説明させていただきたいと思っております。

まず、資料の5ページですが、兵庫県の粒子線医療センター、これは西播磨のテクノポリスにございますけれども、それと三菱電機と共同で重粒子線の治療装置の普及を世界に進めたいと考えておりますが、外国人臨床医師の修練制度の規制緩和が是非とも必要になっておりますので、御検討願いたいということでございます。

それから、別紙で、「国家戦略特区関連事業」を配らせていただいております。これは、関西広域連合と共同提案という格好で、いわゆる次世代電池の評価、これはSPring-8で、いわゆる次世代電池の限界状況を評価して開発に活かしていくということで、県内企業等がぜひとも進めたいということを考えております。

それに当たりましては、先ほど神戸市のほうからも説明がありましたが、SPring-8とスパコンの「京」のほうで、いわゆる産業利用という格好で、電池の開発、創薬関係、この二つのプロジェクトにつきまして、特別枠というのを設けていただきまして、産業化を進めてまいりたい。それを是非ともお願いしたいということでございます。

以上、簡単でございますけれども、兵庫県と神戸市からの提案とさせていただきたいと

思いますので、よろしく御検討のほどお願いしたいと思います。

○坂村委員 最後のところで分からなくなったのだけれども、最初はiPSとかグローバル・ライフイノベーション特区とおっしゃっていましたよね。コンテナというのは何ですか。これはどこに。

○三木本部長 コンテナは今日は説明をしなかったのですけれども。

○坂村委員 これは別のものですね。

○三木本部長 はい。みなと総局のほうで、大阪市と一緒に今、阪神港というのを造っておりまして、その関係の規制緩和です。

○坂村委員 先ほど5ページとおっしゃっていたのは。

○三木本部長 5ページと、今、言われたのは、粒子線のやつについてでして、先ほどの私の説明の補足であり、阪神港についてではございません。

○坂村委員 コンテナは全然これとは別ですね。

○三木本部長 はい、別です。

○坂村委員 どちらが優先順位が高いですか。

○三木本部長 我々のほうは、もちろん世界に。ただ、複数提案も可ということなので、阪神港、別事業主体みたいになっていますので、大阪市と一緒にございます。

○坂村委員 そうすると、この中で特区としてやりたいということはいくつかあるのですけれども、これは全部パッケージじゃないとすると、やはり重要なところは2番とか1番ですか。

○三木本部長 1番、2番は規制緩和にかなり絡んでおります。特に病床規制と複数の医療機関を一つにする。

○坂村委員 病床規制の問題は、どっちかと言ったら、病床規制が何だというのに対して、お金がかかるわけではないんですよ。

○三木本部長 我々が考えています病床規制というのは、国際医療に対応する病床です。これについてやはり特例というのがあるので、特例の認定の権限が、今、大臣までいかなければならないんですね。

○坂村委員 それをそちらにしてくれという。

○神戸市 はい。これはうちも医師会も色々言っていますから。そことちゃんと協議しています。

○坂村委員 特例にしたときの認定を大臣まで行かないで、どこにするかはともかくとして、知事とか市長とか、どこかもうちょっと特区のローカルなところの判断でできるようにしてくれないかということですね。

○三木本部長 はい。我々、専門病院を造ったときも県市で話しまして、知事と市長の権限で、兵庫県は広いですから、そのエリアの中で均衡化して、病床を神戸圏域にもらったりしたんです。そういうことを瞬時にできるようにしていただきたい。

○坂村委員 瞬時にできるようにしないと、迅速に色々なことが進まないということですよ。

ね。

○三木本部長 はい。これと、地域医療の話、あるいは産婦人科の医療の話と病床がぐちゃぐちゃになったら、議論はできなくなる。

○坂村委員 それはよく理解しています。要するに、最先端医療と地域医療とがちょっと違いますから。

○三木本部長 世界を対象にした病床と地域を対象にした病床です。

○坂村委員 そうですね。その違いは大事ですよ。

それと、あと、一つ伺いたいのは、そういうようなことで特区認定することによって、こういうものがスピードアップすることを期待されているのであって、これを実際に進めるための資金とか、それは別のところであるということですよ。

○三木本部長 はい。我々、IPSの再生医療センターしかり、これは自前で既存の制度でやらせていただきたいと思います。

○坂村委員 分かりました。

それと、あと、もう一つ伺いたいのは、これは民間企業の方たちももう一緒にグループになっていて、何かやると決まると、割と即戦力が高く製品の開発にもつながるし、ということですか。

○三木本部長 はい。我々、この提案をするに当たって、民間企業の方にまず集まっていただきました。この四つのプロジェクトをやりますので、手挙げ方式で、参加する企業の方に。今、言いませんでしたのは、非公開になっているのは（２）番で、書いていないですけれども、医療ロボットでございますね。これがA社とB社で9月末に公表するらしいので書いていなかったのですけれども、これもやるということで。

○坂村委員 こういう会社はもうネゴシエーションが終わっていますか。

○三木本部長 今日来ていらっしゃいます。

○坂村委員 例えば、ここのところが特区となったりした場合には、さあ、どうしようというのがそれから始まるのではないわけですね。

○三木本部長 全部我々のほうに進出いただいている企業ですから、研究者ともう既にプロジェクト体制を組んでおります。

○坂村委員 そうすると、国がちょっと、先ほど言ったようなことで協力することができれば、ドンと進むと考えるとよろしいんですか。

○三木本部長 はい。一点集中突破でお願いしたいと思っています。

○坂村委員 なるほど。

それと、これ全部じゃなくてもいいんですよ。この中の4個のどれか1個でもできればということですかね。

○三木本部長 （１）、（２）は、どちらも既に世界への手掛かりを掴んでいる、日本での数少ない医療でございますので。

○坂村委員 だから、もう少しで、もうちょっと行けばもつとなると、そういうことね。

○三木本部長 はい。

臨床修練制度と病床規制の話は、関西イノベーション国際戦略総合特区でもこの地域活性化事務局を通じて要望させていただいたんですけれども、権限移譲については一切触れられていません。ですので、ここは思い切ってやっていただきたいと。

○坂村委員 分かりました。

企業の方、せっかくいるのだったら、一言、どうぞ。本当にやるということの担保が取りたいのですけれども。

○辻本主席部員 弊社は、特に1番に関わらせていただいております、この9月に再生医療に特化した組織を立ち上げまして、神戸のほうにも研究の拠点を移すという形で進めております。

○坂村委員 ということは、経済効果が御社にとってちゃんと見えていて、結果を出せる自信があるということですね。

○辻本主席部員 はい。事業化まで考えております。

○坂村委員 それも、しかもそんなに遠い将来じゃなくて、割と近未来にそういうことが展開できるということですね。

○辻本主席部員 その計画で動いております。

○坂村委員 今、ちらっとおっしゃいましたけれども、これは国家戦略特区になったときは、もちろん神戸市とか兵庫県とか、大阪市とか、地方自治体もそうですけれども、国と、あと、国の機関というのも出ていて、民間会社というのが一番望ましいんですよ。そういう意味で行くと、理化学研究所ですか。国の機関で関係してくるところというところ、どこですか。

○三木本部長 理化学研究所と医薬品医療機器総合機構ですね。医薬品医療機器総合機構、ここの承認がないと、世界に打って出られませんから。

○坂村委員 理研は神戸にスーパーコンピューターがありますよね。

○三木本部長 理化学研究所はスーパーコンピューターと再生医療とイメージングの研究所があります。

○赤木局長 それと、西播磨にSPring-8とSACLAもごぞいます。

○坂村委員 それは全部そこに。

○三木本部長 はい。

○坂村委員 それから、PMDAも。

○三木本部長 PMDAは今度ですね。これは関西イノベーション国際戦略総合特区のおかげで出張所が出来ます。

ただ、新しいレギュレーションのガイドラインを作るための出張所ですので、こういうiPSとか医療機器は対応できると思います。既に厚生労働省の役人が2人来ています。

○坂村委員 ここに来ているのですか。

○三木本部長 私のところに来ています。

- 坂村委員 ということは、厚生労働省もかなり協力的だということですか。
- 三木本部長 はい、巻き込んでやります。
- 藤原参事官 よろしいでしょうか。
それでは、どうもありがとうございました。